

## 総務省国立研究開発法人審議会（第24回）

1 日 時 令和7年12月22日（月）10時00分～10時51分

2 場 所 WEB会議にて開催

### 3 出席者

#### （1）委員

橋本会長、藤野会長代理、生越委員、小野委員、末松委員、前原委員、森田委員  
（以上7名）

#### （2）専門委員

牛尾専門委員、大森専門委員、小杉専門委員、篠田専門委員、篠永専門委員、  
富樫専門委員、永山専門委員、松永専門委員、村瀬専門委員、森井専門委員、  
八亀専門委員  
（以上11名）

#### （3）総務省

布施田国際戦略局長、柴山官房審議官（国際戦略局担当）、  
安東参事官、寺岡技術政策課長、大西技術政策課技術革新研究官、  
内田技術政策課企画官、浅川技術政策課課長補佐

### 4 議 題

- （1）国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標策定について
- （2）国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）について
- （3）国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）に対する総務省国立研究開発法人審議会からの意見（案）について

## 開 会

【橋本会長】 では、ただいまから第24回総務省国立研究開発法人審議会を開催いたします。

本日は御多忙のところ御参集いただき、ありがとうございます。本日はオンラインの開催でございます。

初めに、本日の会議の定足数の関係でございますが、委員7名中7名が出席されており、定足数を満たしていることを御報告いたします。専門委員15名中、現状では10名にも御出席いただいております。本日御欠席の方は、荒牧先生、小塚先生、小紫先生、そして永山先生は御出席の御予定ですが、まだお入りになられていないという状況と認識しております。

また本日は、NICTより、山口理事にも御出席いただいております。

ではまず、開催に先立ちまして、布施田国際戦略局長に御挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【布施田局長】 本日は、情報通信研究機構、NICTの第6期中長期目標（案）に対する御意見を取りまとめていただく予定となっております。橋本会長はじめ、NICT部会の先生方におかれましては、大変熱心に御審議いただきまして、改めて感謝申し上げます。

現在、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議におきまして、第7期科学技術・イノベーション基本計画の検討が進められているところでございます。先端技術を開花させ、イノベーションを創出し、日本経済を強い成長軌道に乗せることが、我が国喫緊の課題となっております。その中でも、情報通信、AI、量子、サイバーセキュリティは、成長戦略の戦略分野として位置づけられておりまして、官民による大胆な危機管理投資、成長投資が求められております。

人口減少社会においてイノベーションを創出し、経済成長を実現するためには、AIの活用をはじめとする社会DXの加速化が不可欠であり、オール光ネットワークを中核とする新たなデジタルインフラの実現が切り札となってまいります。

また、近年、デジタル分野において海外依存度が高まる中、安全保障の観点からも、こうしたデジタルインフラの中核となる技術・システムの競争力を強化し、海外展開を進めることが必要となっております。このような状況下において、情報通信分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関であるNICTへの期待は大変大きくなっております。

本日御審議いただく第6期中長期目標（案）は、NICTの来月4月から始まる5年間の

活動方針を決める重要なものでございます。NICTのポテンシャルを最大限引き出し、我が国の重要政策の実現にしっかりと貢献していくことができるように、本日は閣下に御議論いただき、忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。

橋本会長はじめ、委員及び専門委員の皆様の御協力、御指導をよろしくお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【橋本会長】 布施田局長、ありがとうございました。

それでは、事務局より配付資料の確認をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【浅川補佐】 本日の配付資料を確認させていただきます。13個のファイルをお送りしております。資料の一番上が議事次第、2ページ目に配付資料の一覧を記載しております。資料は画面投映もいたしますが、ファイルの破損、配付資料の抜け等ございましたらお知らせください。また、一部の資料は委員限りとさせていただきます。傍聴の方はホームページに掲載されている資料のみ公開としておりますので、御了承ください。

事務局からは以上です。

## 国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標策定について

【橋本会長】 それでは、本日の議事に移ります。

まずは、議題（1）国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標策定についてです。事務局から説明をお願いいたします。

【内田企画官】 それでは、まず初めに資料国研24-1を用いまして、国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標の策定について御説明いたします。

1枚めくっていただきまして、1ページ目を御覧いただければと思います。現在NICTは、第5期中長期目標期間となっております。これが今年度末で終期を迎えますので、来年4月からの新たな中長期目標、第6期中長期目標を策定することが必要となっております。

次に2ページ目を御覧ください。中長期目標の策定に向けた手続を記載しております。こちら独立行政法人通則法を引用してございますが、主務大臣が中長期目標を定め、またはこれを変更しようとするときは、あらかじめ国立研究開発法人審議会の意見を聴かなければならないとされております。本日はこの規定に基づきまして、中長期目標の案に対する国研審としての御意見を取りまとめていただくことを予定しております。

3 ページ目を御覧ください。N I C T の中長期目標の策定に向けたスケジュールでございます。総務省におきましては、N I C T の中長期目標の策定に資するべく、情報通信審議会におきまして、N I C T が取り組むべき重点研究開発分野・課題及び研究開発・成果展開等の推進方策などについて検討を行ってまいりました。その中間答申を踏まえまして、総務省において策定した第6期中長期目標（案）について、N I C T 部会において御審議をいただいております。12月10日に開催されましたN I C T 部会におきましては、第6期中長期目標（案）に対する部会としての御意見を取りまとめていただいております。本日お諮りします意見の案につきましては、このN I C T 部会の御意見を基にしたものとなっております。本日御意見を頂戴した後は、頂戴した御意見を適切に中長期目標に反映いたしまして、年明け、独立行政法人評価制度委員会にお諮りした上で、来年2月頃を目途に中長期目標の公表を予定しております。

4 ページ目を御覧いただければと思います。こちらが、この情報通信審議会の中間答申の概要でございます。この内容は適切に中長期目標（案）のほうに反映がされておりますので、ここでの詳細な説明は割愛をさせていただきます。

次に、5 ページ目を御覧いただければと思います。こちらは第51回N I C T 部会で取りまとめたいただきました、N I C T の業務及び組織の見直しの方向性の概要でございます。ポイントが非常に簡潔にまとまっておりますので、こちらのページを用いまして、第6期中長期目標（案）のポイントを説明させていただければと思います。まず、業務と組織2つに分かれておりますが、業務の方、(1)でございます。我が国の重要政策の実現に不可欠な技術であり、産学官一体となり、横断的かつ戦略的な取組を強力に推進すべきものとして、以下の4領域を戦略領域と位置づけております。A I ・コミュニケーション、B e y o n d 5 G、量子情報通信、サイバーセキュリティの4領域でございます。(2)が、我が国社会を支える情報通信分野の基礎的・基盤的な技術であり、中長期的な視点に立って研究開発等に取り組むべきものとしたしまして、以下の5分野を重点分野として位置づけております。電磁波先進技術分野、革新的ネットワーク分野、サイバーセキュリティ分野、ユニバーサルコミュニケーション分野、フロンティアサイエンス分野の5分野でございます。(3)は、N I C T の研究開発成果を民間企業や大学等に橋渡しするための社会実装機能、及びN I C T が有する施設・設備や蓄積された知見等を活用して民間企業等のイノベーションを促進するための外部連携機能の2つの充実・強化を図り、特に以下の事項に取り組むとしております。①我が国発の技術の社会実装を促進するためのイノベーションハブ機能の強化、②

N I C Tの研究資金配分機関としての機能の強化、③N I C Tにおける研究開発成果の社会実装推進体制の強化、④N I C Tにおける人材の育成・確保、⑤戦略的な標準化活動の推進、⑥スタートアップ支援の推進でございます。

次に組織でございますが、(1) 研究開発成果の最大化及び適正、効果的かつ効率的な業務運営の一層の確保を図るため、組織体制の不断の見直しを図る、(2) 研究開発成果の社会実装のため、N I C Tの技術シーズと外部ニーズの橋渡しを担う体制を整備していくということとなっております。

6 ページ目を御覧ください。第6期中長期目標の構成の案でございます。今期中長期目標からの一番の変更点は戦略領域です。中項目の上から3段目、戦略的に推進すべき技術領域という項目がございますが、この戦略領域をしっかりと1本の項目として立てているところが大きな違いでございます。今期中長期目標におきましては、戦略領域は総論で触れられているのみで、評価対象とはなっておりませんでした。しかしながら、やはりN I C Tが政府の重要施策の実現にどのように寄与していけるか、また、産学官連携の中核・結節点としてどのような取組を行っていくのかという点に関しましては、個別の研究開発分野というよりは、N I C T全体を横串で見っていくという考え方の下で、戦略領域についてもしっかりと1本の項目として立てているところでございます。

なお、米印が振ってございますが、戦略領域は横串の概念でございますので、どうしても重点分野と取組が重なってくる部分がございます。このため、戦略領域につきましては、我が国の重要政策の実現等にどのように貢献していくのかという観点から評価するものとしたしまして、個別の研究開発課題等に関する評価は、重点分野等において行っていただくことにしたいと考えております。

その他の内容につきましては、次の議題で御説明をいたします。

次、7ページ目を御覧いただければと思います。御意見をいただきたい観点を整理いたしております。詳細は、独立行政法人の目標の策定に関する指針というものがございますので、そちらを御参照いただければと思いますけれども、例えば総論といたしましては、項目で定めた目標が全体として整合性が取れたものになっているかという観点や、法人の役割(ミッション)、業務、国の諸政策に関する方針等を踏まえ、研究開発成果の最大化に向けた適切な目標となっているかと、こういった観点が挙げられております。N I C T部会におきましては、このような観点から御審議をいただいております。

次に、8ページ目を御覧ください。8ページ目以降は参考資料となっております。ただい

ま、冒頭布施田からも紹介がありましたが、総合科学技術・イノベーション会議におきまして、第7期科学技術・イノベーション基本計画の議論が行われております。そのような政府全体の方向性とも整合性が取れているかという観点から、関連部分を抜粋しております。

次のページ、9ページ目を御覧いただければと思います。この中におきまして、第2章「知の基盤としての「科学の再興」」という中に、7ポツ、国立研究開発法人の改革といった項目が設けられております。この中では、我が国が様々な課題に直面する中で、継続的かつ安定的に研究活動を推進し、優れた研究成果やイノベーションの創出を通してこうした課題解決に貢献していく国研の役割が、これまで以上に期待されている。今後、国が戦略的に設定する重要技術領域に係る研究を先導しつつ、経済安全保障上の課題にも対応する際、社会への役割周知と人材確保の観点においても、国家的課題への対応という国研のミッションを中長期目標に位置づける。産学官連携の中核として、企業、大学、行政の協働を促進し、国研の特性に応じつつ、基礎研究や応用研究の推進、研究成果や技術シーズの徹底した社会実装とイノベーション創出等を図る。国研間も含め、組織的な連携体制を強化することにより、共同研究や重要技術の継承の仕組み整備、知的財産の管理と活用、人材交流を推進し、産業競争力、地域活性化に貢献する。国研の、国家戦略に基づき国家的課題等を担う産学のプラットフォームとして新たな取組を試行的に行う場としての機能を強化し、政策実施に係る複雑なシステムが生み出す予期せぬ効果を把握することにも注力し、得られた知見について大学等を含め展開を図っていくというようなことが取り上げられるところでございます。今回の中長期目標の案におきましても、こういった点と整合が取れているということを確認しておりますので、後ほどまた御審議いただければと思います。

第3章としまして、技術領域の戦略的重点化といった項目がございまして、その中で、新興・基盤技術領域、国家戦略技術領域といった概念が示されております。

ページをおめくりいただきまして、11ページ目を御覧いただければと思います。こちら2つ大きく新興・基盤技術領域、国家戦略技術領域が選定されております。例えばこの中におきましては、AI、量子、情報通信、サイバーセキュリティ、こういったものが掲げられているところでございます。

最後、12ページ目でございますが、これは日本成長戦略会議で提示がされました成長戦略の検討課題の抜粋でございます。中身は、同様にAI、量子、情報通信、サイバーセキュリティといった領域が掲げられておりまして、この先5年間といったもののトレンドにおいても、こういった領域がますます重要性を増していくであろうということが言えるかと

考えております。このような観点を踏まえまして、この後の御審議をお願いできれば幸いです。  
ございます。

事務局からは以上でございます。

【橋本会長】 ありがとうございます。ただいまの御説明に関しまして、御質問はございませんでしょうか。第6期中長期目標（案）の概要は次の議題で説明をしていただきますので、目標（案）への御質問はそちらのほうで承れればと思います。まずは考え方、進め方といった点で御質問があれば、こちらでお願いしたいと思います。いかがでしょうか。大丈夫ですかね。よろしいでしょうか。特に御質問はないようですので、次に進めたいと思います。

#### 国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）について

【橋本会長】 では、続きまして、議題（2）国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）についてに移りたいと思います。まずは事務局から、第6期中長期目標（案）の概要について説明をお願いいたします。

【内田企画官】 それではまず、資料国研24-2という束があると思いますが、その中の別紙を用いて御説明をさせていただければと思います。

初めに別紙1を御覧いただければと思います。こちらNICTに係る政策体系図となっております。まず、法人の目的でございます。我が国唯一の情報通信分野を専門とする公的研究機関であり、国際動向を踏まえつつ、国の情報通信政策との密接な連携の下、大学や民間企業では実施できないような、長期間にわたり組織的に推進すべき情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発、高度通信・放送研究開発を行う者に対する支援、標準時の通報、通信・放送事業分野に属する事業の振興等を総合的に行うということで、こちらはNICT法、法律のほうに規定されている目的を整理したものとなっております。

次に、国の政策・施策でございます。先ほど御紹介いたしました科学技術・イノベーション基本計画をはじめとしまして、統合イノベーション戦略、情報通信審議会の「新たな情報通信技術戦略の在り方」第5次中間答申、こういったものを踏まえて取り組んでいくということとしておりまして、具体的には、人口減少の社会においてイノベーションを創出し、経済成長を実現するため、AIの活用をはじめとした社会DXを加速化していくと。デジタル分野において海外依存が高まる中、安全保障の観点からも、デジタルインフラの中核となる技術とシステムの競争力を強化し、海外展開を推進すると。こういった政策の下で進めてい

くという整理といたしております。

矢印の下に参りまして、法人の役割（ミッション）でございます。こちら4つ掲げてございます。国際競争力の強化や国家安全保障・経済安全保障の確保等をはじめとした我が国の重要政策の実現に寄与する、産学官連携の中核・結節点としての役割を強化する、NICTが有する施設・設備や蓄積された知見等のさらなる有効活用を図りながら、民間企業等におけるイノベーションを支援する、機構法に基づく標準時通報等の業務を継続的かつ安定的に実施する、以上の4つをミッションとして掲げております。

その上で、研究開発等を通じて貢献すべき目標といたしまして、貢献目標というものを4つ挙げております。災害に強く、強靱な社会インフラの構築、安全で、信頼できる情報通信環境の整備、GX・DXを支える持続可能なICT基盤の構築、DXを通じた効率化・合理化、新たな価値の創造の4つでございます。

そしてその下、研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項といたしまして、戦略領域、重点分野、イノベーションの基盤となる研究開発課題、社会実装機能・外部連携機能等といったものを規定しておりまして、これらの取組を通じて、貢献目標の達成を目指すこととしております。

先ほど御説明したとおり、戦略領域といたしましては、AI・コミュニケーション、Beyond 5G、量子情報通信、サイバーセキュリティ、この4領域を特定しております。また、重点分野といたしましては、電磁波先進技術、革新的ネットワーク、サイバーセキュリティ、ユニバーサルコミュニケーション、フロンティアサイエンスの5分野を特定しております。重要度といったものを中長期目標では定めることになっておりますが、この重点分野につきましては、全体として【重要度：高】ということとしております。

さらに、重点5分野のどこか1つに定めることは困難ではありますが、情報通信技術そのものの高度化に資する、我が国のイノベーションの基盤となる技術というものをイノベーションの基盤となる研究開発課題としておりまして、レジリエントICT基盤技術、あるいはBeyond 5Gアーキテクチャ構成技術といったもの、6つをピックアップしております。こちらも全体として【重要度：高】としております。

社会実装機能・外部連携機能等といたしましては、我が国初の技術の社会実装を促進するためのイノベーションハブ機能の強化、研究資金配分機関としての機能の強化、NICTにおける研究開発成果の社会実装推進体制の強化について、NICTのミッションに大きく寄与するものといたしまして、【重要度：高】といたしております。そのほかに戦略的な標

準化活動の推進、積極的かつ戦略的な国際連携の推進、地域発 I C T スタートアップの支援などにも取り組むことといたしております。

次に、資料移りまして、別紙 2 を御参照いただければと思います。

こちらが N I C T の使命等と目標との関係を整理したものでございます。まず使命でございますが、これは先ほど御説明いたしました法人の目的と同様でございます。

その下の段に参りまして、左側、現状・課題として、強みと課題を整理しております。まず強みから参りますと、情報通信分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関として、技術力や知見・経験を蓄積している。N I C T が主導してオールジャパンのコンソーシアムを形成することなどを通じて、研究開発成果の社会実装も着実に進展しているというふうに評価しております。その下、課題ですけれども、N I C T の研究開発成果を民間企業や大学等に橋渡しするための社会実装機能とともに、N I C T が有する施設・設備や蓄積された知見等を活用して民間企業等のイノベーションを促進するための外部連携機能の充実・強化を図ることが重要である。急速な進化・普及を見せる A I やサイバーセキュリティなど新技術に対応した研究人材の育成・確保とともに、研究開発成果の技術移転や研究開発活動の企画・マネジメント等に関する専門人材の確保・活用など、N I C T の技術シーズと外部のシーズの橋渡しを担う組織体制の見直し・強化を図ることが必要である。

右側、環境の変化といたしまして、3 つ挙げております。人手不足の進展、インバウンドの拡大、エネルギー消費の増大、自然災害の激甚化及びサイバー空間上のリスクの増大といった社会情勢の変化。生成 A I の爆発的普及、オール光ネットワークの商用サービス開始、量子技術に係る研究開発の進展及びサイバー空間を取り巻くリスクの変化といった技術の進展。研究開発及びその成果の社会実装のみならず、N I C T の業務の中で民間企業等におけるイノベーションを支援する役割の比重が増加といったことを挙げております。こういったことを踏まえまして、矢印の下に参りますが、中長期目標のミッションといったものを定めているところでございます。

次に、資料国研 2 4 - 3、第 6 期中長期目標（案）と第 5 期中長期目標との比較表を用いまして、内部管理系の業務について、差分を中心に御説明できればと思います。

まず、2 6 ページを御覧ください。業務運営の効率化に関する事項でございます。1 ポツ、機動的・弾力的な資源配分におきましては、「社会情勢の変化や技術の進展のスピードに的確に対応し、適時・適切な橋渡しを含め」という文言を追記いたしまして、より高い機動性を求めています。なお、2 パラ目の記載が消されておりますけれども、これは 1 つ前の章

において、外部機関との連携の推進といったように記載を移しているというものでございます。次に、2ポツの調達等の合理化は、文言の適正化となっております。

27ページ目に参りまして、3ポツ、DXを通じた業務変革と働きやすさの向上でございます。これは従来のテレワークや電子化の取組から1歩先に進みまして、DXを通じた業務変革ということを強く打ち出しております。4ポツ、業務の効率化につきましては、独立行政法人の目標の策定に関する指針の別紙、目標策定の際に考慮すべき視点並びに目標及び指標の記載例といった文書が本年6月に改正されておりますので、これを受けた記述の修正を行っております。5ポツ、組織体制の見直しは文言のみ修正となっております。

28ページ参りまして、財務内容の改善に関する事項でございますが、こちらにつきましては、廃止された勘定に係る記載を削除するなど、一部記載の見直しを行っておりますけれども、基本的な考え方に変更はございません。

30ページ参りまして、その他業務運営に関する重要事項でございます。1ポツ、NICTにおける人材の育成・確保につきましては、研究人材と併せまして、研究開発成果の技術移転や研究活動の企画・マネジメント等に関する専門人材の充実・活用という点を改めて強く打ち出しております。その次、2から5までは大きな変更はございません。

次に、31ページ参りまして、研究セキュリティ・インテグリティの確保でございますが、こちらは近年の重要性の高まりを受けまして、新たに項目を追加いたしております。

最後、7ポツは変更ございません。

駆け足になりましたが、第5期中長期目標との差分を中心に御説明差し上げました。事務局から説明は以上でございます。

**【橋本会長】** ありがとうございます。こちらはNICT部会において議論を行ってまいりまして、NICT部会としての意見を取りまとめております。

皆様から御意見をいただく前に、まずは事務局からNICT部会の意見を御紹介いただけますでしょうか。

**【内田企画官】** それでは参考国研24-3を御覧いただければと思います。

こちらが12月10日のNICT部会におきまして、取りまとめたいただきました御意見となっております。上から読み上げてまいります。国立研究開発法人情報通信研究機構が第6期中長期目標（案）で示された取組を確実に遂行し、その目標を達成するためには、特に以下の事項が重要であると考えます。総務大臣におかれては、これらの事項に十分留意し、目標管理に取り組まれます。第6期中長期目標を達成するためにNICTが特に取り組む

べき事項。1. 中長期目標の達成のためには、研究人材の確保は重要な課題であることから、適正、効果的かつ効率的な業務運営の確保に留意した適切な資源配分の下、研究開発成果の技術移転や研究開発活動の企画・マネジメント等に関する専門人材と併せ、必要な人材の確保に努めるべきである。2. N I C Tの研究開発の取組と研究資金配分機関としての取組の連携を図り、一貫性を持って研究開発及び社会実装に取り組むべきである。3. 産学官の中核・結節点としての役割を果たすことに加え、民間企業等のイノベーションを促進するための機能を充実・強化することは、重要な取組である一方で難易度の高い取組でもあることから、具体化に当たっては、効果的な方策を十分に検討すべきである。4. 実績評価に当たっては、戦略的に推進すべき技術領域に関連する政府戦略等を明示するなど、我が国の重要政策との関係を可能な限り分かりやすく示すべきである。5. 今後は、研究分野横断の学際的研究やエコシステムの構築といった研究領域がさらに重要になっていくとの認識の下、このような研究領域の強化策を継続して検討すべきである、の5つとなっております。

事務局からは以上でございます。

【橋本会長】 ありがとうございます。次の議題で第6期中長期目標（案）に対する国研審の意見を取りまとめることとなりますが、それに先立ち、第6期中長期目標（案）に対する御質問、御意見があれば承りたいと思います。

何か御質問、御意見はございますでしょうか。

【藤野会長代理】 N I C T部会の方々、大変な議論をしていただいてここまでたどり着いたということございまして、これまでの議論に感謝をいたしたいと思います。私、J A X A部会のほうから少しやらせていただいておりますが、1点ちょっとお伺いさせていただいたのが、今回の第6期中長期目標計画の構成で、戦略的に推進すべき技術領域という話が1本横串を通すという、そういう話になっておりまして、これは非常に分かりやすくてよいからの、外向きには非常に分かりやすい感じになりますので、非常によろしいかという具合に思うのですが、これを実際に実行しようとする時、要は実行部隊が結局ほかの組織として非常に重複するような組立てにならざるを得ないかと思うのですが、そこら辺の実際のこの目標達成のための取組について、どのような組織構成等を考えておられるか、これはちょっと先の話になるかと思いますが、お伺いできればと思います。

【橋本会長】 御質問ありがとうございます。おっしゃるとおり、非常に負荷も大きい業務になると思いますが、これにつきまして、事務局の方から何かお答えいただける部分ありますでしょうか。

【内田企画官】 御質問ありがとうございます。今御指摘の点は、まさにNICT部会でも大分議論になったところでございます。資料といたしましては、資料国研24-1の6ページを御覧いただければと思います。

まさに御指摘のとおりでございまして、戦略領域は横串になっておりますので、重点分野ですとか、その下にあります社会実装機能・外部連携機能、こういったものと重複、組織としては重複する部分が出てまいります。したがって、評価の観点を変えるということで切り分けて御評価いただきたいと、そのように考えております。具体的には、戦略領域に関しましては、ちょっと小さくなってはおりますが、※1というところに記載がありますけれども、我が国の重要政策の実現等にどのように貢献しているか、そして産学官の中核・結節点としてどのような役割を果たしていくかと、そういった観点から、つまり政府戦略にどのように貢献しているのかといった観点からの評価をお願いする一方で、重点分野ですとか、その他の項目におきましては、その研究開発そのものについて評価をいただくということで、評価の観点を切り分けるということで御対応いただきたく考えているところでございます。

先ほど御紹介いたしました、参考国研24-3のNICT部会の御意見の中に、4ポツの御意見があったかと思えます。こちら「業務実績評価に当たっては」ということで、戦略領域に関連する政府戦略等を明示するなど、関係性を分かりやすく整理してほしいという御意見ありまして、まさにここの御意見は、戦略領域とその他の分野の関係性をしっかり切り分ける、あるいは整理して評価をしていくという観点からいただいた御意見となっております。説明は以上でございます。

【橋本会長】 はい、ありがとうございます。今事務局の御説明にありましたように、この部分、確かに大きな議論になりまして、結構切り分けることは非常に難しい場面もありますが、今事務局で御説明いただいたような観点で、できるだけ切り分けられるところは切り分けると、また、重なっている部分についても、その都度どちらの観点で評価していくかということを考えていくということで対応していこうというふうに考えております。

藤野先生、いかがでしょうか。

【藤野会長代理】 承知しました。そういう意味では、この戦略的に推進すべき技術力というところ、そっちのほうの観点で考えた、そういう意味ではマネジメント、研究マネジメント等の、何というんですか、マネージャーというようないふこが必要のように思いますけれども、そこら辺は今後法人等で考えられていくという具合の考えでよろしいかと。よろしいということでよろしいですね。

【内田企画官】 研究所単位でまいりますと、基本的には研究開発の重点分野を見ていただく組織になると思いますが、横串をどう見ていくかという点につきましては、NICTの中にも経営企画部等ございますので、そこと相談しながら、どのような形で評価していくかといったことを今後詰めていければというふうに考えております。

【橋本会長】 ありがとうございます。藤野先生、こちらで大丈夫でしょうか。

【藤野会長代理】 はい、承知しました。ありがとうございます。

【橋本会長】 ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。大丈夫ですかね。

### 国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）に対する総務省 国立研究開発法人審議会からの意見（案）について

【橋本会長】 では、次の議題に移りたいと思います。それでは、議題（3）国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）に対する総務省国立研究開発法人審議会からの意見（案）についてです。

まずは事務局から説明をお願いいたします。

【内田企画官】 参考資料の国研24-4を御覧いただければと思います。

まず頭紙でございます。本日取りまとめていただきました御意見につきましては、橋本会長名におきまして、林総務大臣宛てに通知いただくことを予定しております。「国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）について（意見）」ということで、令和7年11月17日付総国技第166号をもって当審議会に求められた国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）に係る意見は、当審議会として慎重に審議した結果、別紙のとおりであるという頭紙を冒頭つけてございます。

次のページに別紙をつけております。こちらの別紙は、先ほど御紹介いたしましたNICT部会の御意見と同じ内容となっておりますので、御説明は割愛をさせていただきます。

御審議のほどよろしくお願いいたします。

【橋本会長】 ありがとうございます。ただいま説明のあった案に対しまして、御質問、御意見があれば承りたいと思います。何か御質問、御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか、こちらに関しまして、大丈夫ですかね。

そういたしましたら、特にここにおいては御質問等もないようですので、国立研究開発法人情報通信研究機構の第6期中長期目標（案）に対する総務省国立研究開発法人審議会から

の意見の取りまとめに移りたいと思います。

本案を国研審の意見として総務大臣に通知することに御異議ございますでしょうか。御異議のある方は、挙手の上御発言いただければと思います。

特に御異議はないと思われますので、御異議なしと認められましたので、本案をもって総務大臣に通知することといたします。皆様ありがとうございました。

## 閉 会

【橋本会長】 以上で、本日の議事は終了いたしました。その他、全体を通して何かありますでしょうか。

よろしいですか。特にはないかなと思います。それでは、事務局から連絡事項をお願いいたします。

【浅川補佐】 本日は審議会としての御意見を取りまとめていただき、ありがとうございました。

本日取りまとめていただいた御意見は、NICTとの間でしっかりと共有し、中長期計画の策定や業務実績の評価に反映させてまいりたいと思います。

今後は独立行政法人評価制度委員会での審議のほか、所要の経路を経た上で、来年2月中をめどに第6期中長期目標を公表するとともに、NICTに指示することを予定しております。第6期中長期目標を公表するタイミングで、別途皆様には情報提供させていただきます。

事務局からは以上でございます。

【橋本会長】 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、第24回総務省国立研究開発法人審議会を終了いたします。皆様、どうもありがとうございました。

(以上)